

筆の里工房と都市公園をつなぐゲートとしての体験交流施設

業務の実施方針

建築とランドスケープが融合する公園施設

建築とランドスケープが融合する都市公園施設には、建築、造園、土木などの専門性を横断した検討が必要です。公園建築設計やまちづくりの経験を活かし、町、施工者、市民との積極的な対話を通じて合意形成を図ります。協働実績のある協力事務所と、迅速・確実・創造的な実施体制で業務を取り組みます。社会情勢の変化による建設価格の上昇に対しては、地域や発注者の意図を理解して仕様の検討を行い、工期、コスト調整をはかります。自然風土や文化、地域性に関する丁寧な調査を行い、得られた知見を施設設計に生かします。

取組体制

合意形成のための会議体

地域に深く理解され、愛される施設の実現に向けた合意形成の場として、町、設計者が構成員の「つくる会議」と、町、運営者、利用者が構成員の「つかう会議」の開催を提案します。これは、プログラム、地域活性化、観光振興、環境などさまざまな立場からこの施設のニーズを検討するためで、参加者の理解が高まるように、会議では模型やイラストを用意します。また、そこで挙がった課題や疑問に対しても、ワークショップや社会実験を実施することで、市民が課題解決の当事者となれるよう努めます。



多様なメンバーが参加するワークショップ

設計チームの特徴

地域理解力、対話力、柔軟性のあるチーム

広島における駅舎建築をはじめ、各地の公共施設実績を持つ経験豊かな設計チームです。地域理解力、対話力、柔軟性が特徴です。ニーズに合わせて、積算、照明計画、家具、サイン等の協力事務所を加え、学識者、地域の高等専門学校などとも連携しながら、確かな建築の実現に向けて真摯に取り組みます。

管理技術者（建築設計・意匠・とりまとめ）

広島における駅舎、東京や愛知における公園交流施設を始め、公共から民間まで多様な建築設計に携わった経験があります。熊野町の豊かな自然、文化、地域性を取り込んだ丁寧で実質的な設計を行います。厳しい単価の設計経験をいかして、適切なコストコントロールを行います。

意匠主任担当技術者	中国地方出身で広島の大学で建築を学びました。総合担当とともに、公共から民間までの多様な建築設計に携わった経験があり、本施設の意匠設計を担当します。地元で建築を実現することに大きなモチベーションと期待を抱いています。
意匠担当及びWS担当	大学での研究教育経験に加え、国内外の公共から民間まで多様な建築設計に携わった経験があります。また駅前広場開発や東日本大震災の復興支援など、まちづくりWSの経験も豊富で、その幅広い視野と対話力で、多くの施設計画をまとめてきました。
構造担当	全国において、公共から民間まで多様な建築の構造設計に関わった経験があります。過材造所に配慮した構造設計には定評があります。管理技術者との協働の経験も多く、現場主義で、施工者との対応を丁寧にしながら、経済的で安心安全な構造設計を目指します。
設備担当	全国において、公共から民間まで多様な建築の設備設計に関わった経験から、幅広い視点で、熊野町の地に的確な設備計画を提案します。管理技術者との協働の経験も多く、自然エネルギーを多く取り入れた快適で経済的な設備計画を目指します。
土木造園担当	多様な土木設計に関わった実績があり、WS担当とは駅前広場開発のまちづくりWSで協働した実績があります。敷地及び周辺の土木設計に関するアドバイーや提案などをを行うと共に、グリーンインフラの手法を取り入れた、自然に負荷をかけない、よりよい環境づくりをサポートします。



筆の里工房から体験交流施設を見る。ランドスケープと融合した緩やかなアプローチの先にゲートとしての屋根付き広場の賑わいが見える。

	令和4年度							令和5年度							令和6,7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
整備事業スケジュール	工事動線整備/上下水道設計/公園実施設計 交差広場水路整備工事(完了) 体験交流施設基本・実施設計業務							上下水道整備工事 公園実施設計業務(最終)							体験交流施設建設工事 保安林解禁業務	調整池工事	駐車場工事	公園整備工事		
体験交流施設設計業務フロー	基本設計(3ヶ月) 条件整理検討案作成							実施設計(9ヶ月) 一般図/詳細図 確認申請/減額調整 積算期間 減額調整 最終説明会							入札・工事準備期間 工事期間 引渡し 工事監理開始 現場見学会 地鎮祭 上棟式 竣工式 公園、施設のつかう会議 家具、施設のつかう会議 DR4 実施設計検査 詳細最終審査					
コスト管理	プロジェクト プロポーザル実施	ガボンーム 準備チェック	概算	つくら会議① つくら会議②	つくら会議③ 説明会	つくら会議④ 検討会	つくら会議⑤ 確認会	つくら会議⑥ 検討会	つくら会議⑦ 検討会	つくら会議⑧ 検討会	つくら会議⑨ 検討会	つくら会議⑩ 検討会	つくら会議⑪ 検討会	つくら会議⑫ 検討会	つくら会議⑬ 検討会	つくら会議⑭ 検討会	つくら会議⑮ 検討会	つくら会議⑯ 検討会		
市民協議WS	DR1 設計方針 条件の適正確認	OR2 基本設計審査 概算工事費審査	DR3 概算調整の確認 詳細仕様の確認	DR4 実施設計検査 詳細最終審査																
品質管理 デザインレビュー	DR1 設計方針 条件の適正確認	OR2 基本設計審査 概算工事費審査	DR3 概算調整の確認 詳細仕様の確認	DR4 実施設計検査 詳細最終審査																
ワークショップ内容・目的	○つくる会議 プロポーザル時に考えたことを熊野町のみなさまに説明するとともに、熊野町観光交流拠点整備構想計画書などの既存計画の再確認、事例調査などにより与条件の再整理、状況把握を行います。その上で、KJ法などを用いて、町のみなさまの要望を確認し、整理していきます。 また模型やイラストなどを用いて、建物の雰囲気や使い方のイメージを町のみなさまと共有していきます。	○つくる会議 プロポーザル時に考えたことを熊野町のみなさまに説明するとともに、熊野町観光交流拠点整備構想計画書などの既存計画の再確認、事例調査などにより与条件の再整理、状況把握を行います。その上で、KJ法などを用いて、町のみなさまの要望を確認し、整理していきます。 また模型やイラストなどを用いて、建物の雰囲気や使い方のイメージを町のみなさまと共有していきます。	○つくる会議 プロポーザル時に考えたことを熊野町のみなさまに説明するとともに、熊野町観光交流拠点整備構想計画書などの既存計画の再確認、事例調査などにより与条件の再整理、状況把握を行います。その上で、KJ法などを用いて、町のみなさまの要望を確認し、整理していきます。 また模型やイラストなどを用いて、建物の雰囲気や使い方のイメージを町のみなさまと共有していきます。	○つくる会議 プロポーザル時に考えたことを熊野町のみなさまに説明するとともに、熊野町観光交流拠点整備構想計画書などの既存計画の再確認、事例調査などにより与条件の再整理、状況把握を行います。その上で、KJ法などを用いて、町のみなさまの要望を確認し、整理していきます。 また模型やイラストなどを用いて、建物の雰囲気や使い方のイメージを町のみなさまと共有していきます。	○家具、サインをつくるWS サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○家具、サインをつくるWS サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。	○公園、施設のつかう会議 サークル活動や市民活動団体などに対して、公園や施設の具体的な使い方について、ヒアリングする場を設けます。							

■特に重視する設計上の配慮事項及びコスト管理に関する工夫及び管理方針

①土地に負担を掛けない配置計画

造成された平地に平屋（一部2階建て）を配置するので、切土や盛土などの造成工事はほとんど発生しません。また木造在来軸組工法による軽量な建物とすることで地盤への負担を軽減し、単純な直接基礎とします。また、建物高さを抑えることで足場などの仮設工事を削減します。



尺モジュールを用いた木造建築の事例

②尺モジュールを用いた合理的で経済的な構造計画

尺モジュールを採用することで、規格品を歩留まりよく使用することができます。柱、はりは多く流通している120幅の製材および集成材を使用し、部材長さを抑えます。また価格高騰傾向にある構造用合板の使用を極力抑え、筋交いを用いた計画とします。

工事区分	金額(千円)
建築工事	¥238,050
空調換気設備工事	¥24,150
衛生設備工事	¥1,7250
電気設備工事	¥48,300
外構工事	¥1,7250
	¥345,000
共通費	
共通費	¥13,400
現場管理費	¥43,000
一般管理費	¥45,000
	¥101,400
総工費(税抜)	¥446,400
総工費(税込)	¥491,040

③要望の綿密な聞き取りによる適材適所の建築計画

ヒヤリングや「つくる会議」及びワークショップで発注者や利用者の意図を正確に理解し、建物に必要な仕様を精査し、適材適所による無駄のない建築を実現します。

④設計とコスト管理の両立

基本設計と実施設計の間に、概算や積算を並行して行い、設計とコスト管理の両面から施設内容を精査し、予定工事金額内に納まるようにします。また、着工後に発生する諸問題に対しては、施工者との綿密な打合せを行い、工期、コスト調整を図りながら柔軟に対応します。

参考概算工事費

②施設機能

②-1 要求諸室の配置や空間構成

片流れの円形屋根の下に屋根付き広場とネムノキのある中庭を南北につなげた「モール」を提案します。モールの東に事務所、作業場兼倉庫、体験学習施設B、西に休憩室、体験学習施設A、トイレ等が並びます。筆の里工房からの建物の見えを低く抑え、南から北に向かって高くなる天井高を利用し、北東にホール、北西に倉庫や機械室とカフェを積層しています。屋上に坂面大池から熊野町が見渡せる展望台を設けます。ホールはカーテン等で区画でき、各種イベントに対応します。公園用具管理倉庫と茶室はモールを抜けた先の一級上がった敷地に設けます。トイレは日本で先駆けてユニセックストイレを検討します。



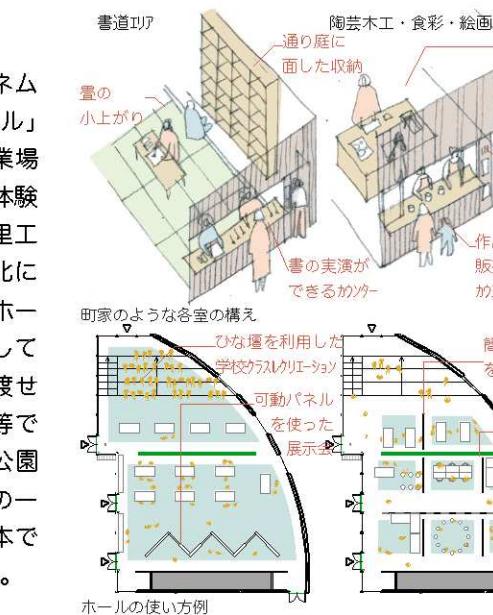
体験学習施設 B は、200 人規模のレクチャーにも対応した天井高のあるワールーム。窓から木工エリア、モールを往来する人々、2階のカフェ、都市公園の丘が見える。

②-2 施設間の動線

モールにそって各施設を配置した、わかりやすい動線計画とします。町家が建ち並ぶ通りのような雰囲気があるモールには、気軽に休憩できるベンチがあり、子連れや高齢者にやさしい作りです。室内の外周部には使いやすい裏方動線を確保します。ほとんどの施設は1階にあり、都市公園と階段でつながった2階のカフェと屋上の展望台にはモールにあるEVと螺旋階段でアクセスできます。

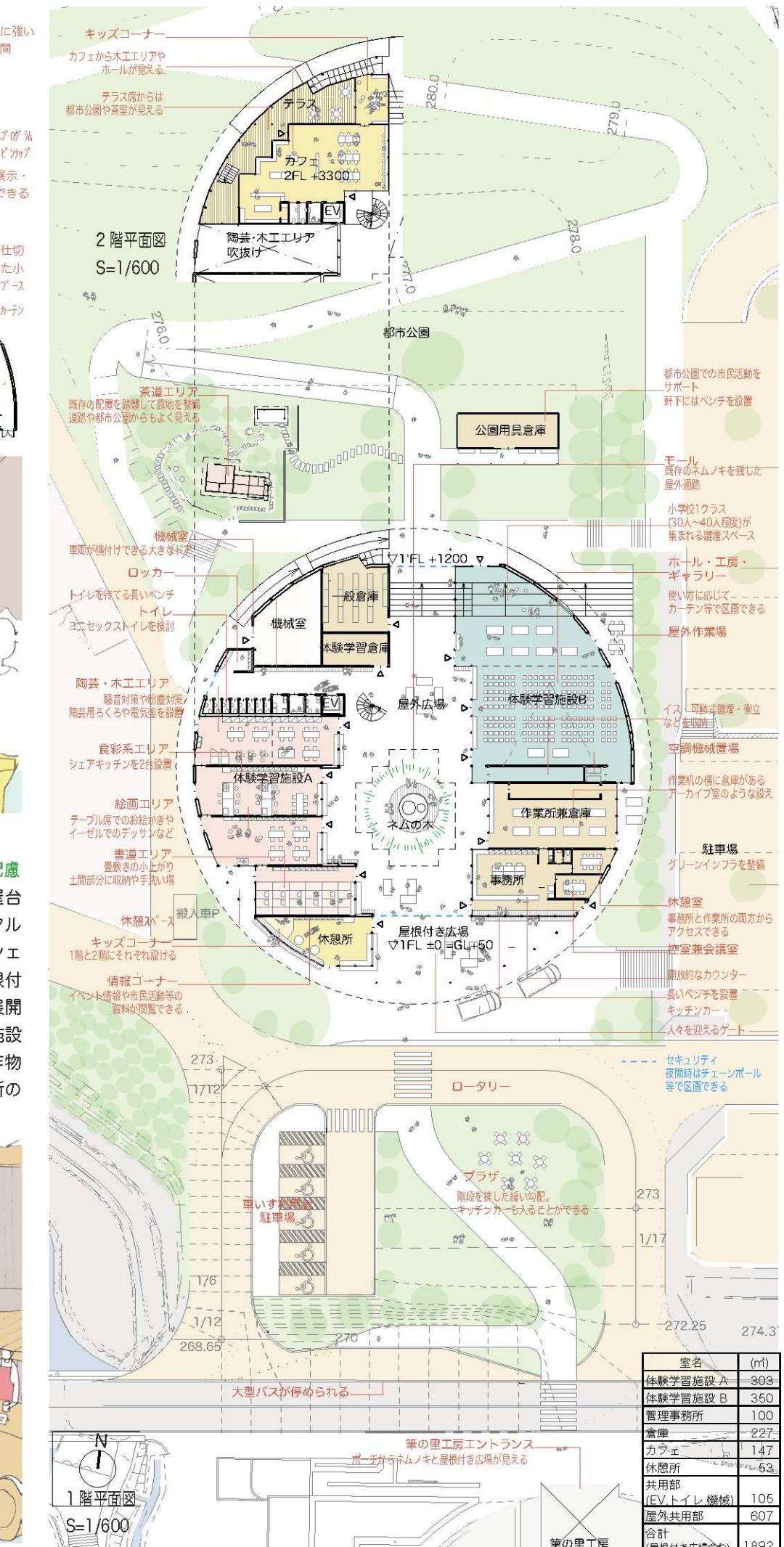


屋根付き広場からモールを見る。既存のネムノキを中心とした活動が一望できる。モールの先には都市公園へと続く道が見える。



②-3 常設物販や不定期マリachi、産直市開催などへの配慮

建物の顔となる正面の屋根付き広場は、屋台やキッチンカーを受け入れて、産直市やマルシェになることを想定しています。マルシェはロータリーに設けたプラザ側にも、屋根付き広場と都市公園をつなぐモール側にも展開可能です。町家が並んだような体験学習施設では、その間口を「ミセ」に見立てて制作物を展示、販売することもできます。事務所の間口の一部は常設物販にも対応可能です。



③経済性・実現性

③-1 シンプルな構えと構成

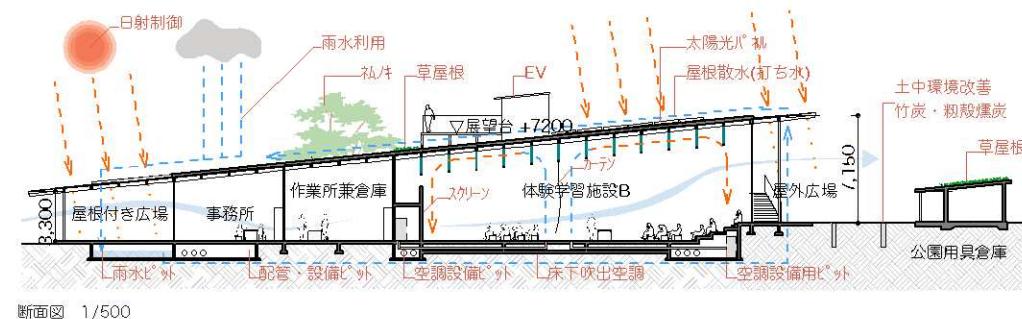
筆の里から都市公園までの地形の勾配を写し取ったような低い片流れの平屋建てとすること

③-2 自然換気を主とした空調換気設備コストの縮減

手動で開閉できる網戸付きの窓を標準仕様とし、中間期の自然換気を促します。体験学習施設の換気形式は作業内容に応じて、自然換気と機械換気の適切な組合せを検討し、コスト低減を図

③-3 ライフサイクルコストの縮減

高効率設備機器を採用しランニングコストを縮減します。管理車両が寄りつける西側に機械室を設け、維持管理しやすい配置とします。



③-4 屋根面における自然エネルギーの活用

屋根面は軽量なガルバリウム鋼板縦はぜ葺きをベースに、草屋根、膜屋根、ウッドデッキ、ソーラーパネルで構成されます。南北に傾いた屋根は、斜面の気流を積極的に取り入れ重力換気を促します。草屋根は展望台前の屋根の照り返しを防ぎます。屋根面に降った雨水を地下ピットに集めてトイレ排水、猛暑時の屋根散水、中庭やプラザなどの水やりに利用します。その際の揚水用電力は蓄電池を備えた太陽光発電システムで賄います。蓄電した電力は夜間照明や非常時にも利用できます。

③-5 合理的な構造計画

木造在来軸組工法による構造計画とします。製材はスギ・ヒノキなどの県産材を積極的に利用し森林保全や経済促進に寄与します。また、地元大工で建築可能な架構計画を提案します。円形平面の構造材は直線材による多角形置換とすることで、コスト上昇を防ぎます。無柱空間のホールは鉄と集成材を組み合わせた張弦梁とすることで実現します。基礎計画は、木造平屋で非常に軽量な建物であること、建物重量に対して十分な強度の砂層/礫層が表層からでていること、城山の麓に位置し支持層の傾斜が考えられることなどから総合的に判断し布基礎とします。

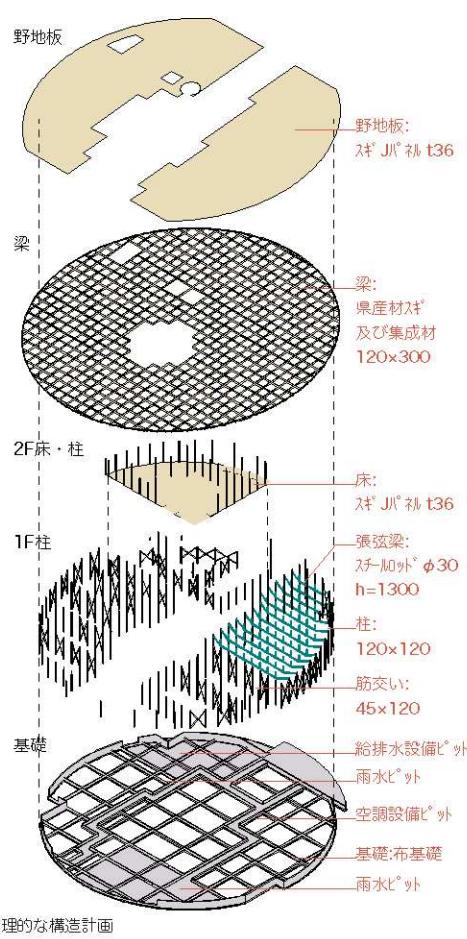
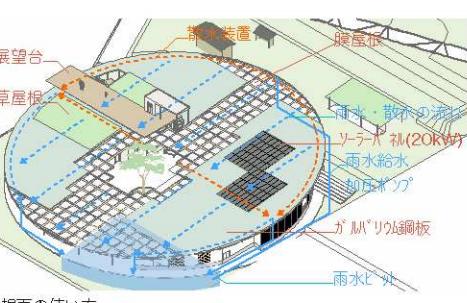
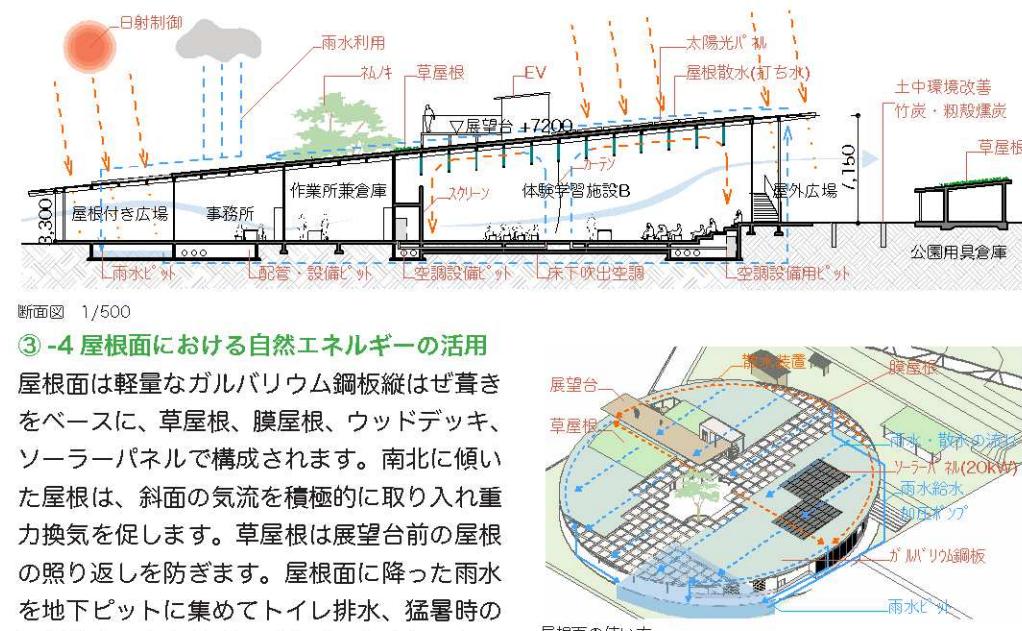
③-6 仕上げ材

今回は騒音や粉塵の作業や水の使用があり、都市公園から泥の持ち込みも想定されます。そこでコストを抑えながら使い方に応じた適材適所の仕上げとします。手が触れる範囲は県産木材を積極的に活用した木つ端葺きや板張りとします。

で、コストダウンと風景への調和を図ります。ネムノキを挟んでモールの両側に視認性高く各施設を配することで維持管理を容易にします。

ります。ホールは天井高を利用したハイサイドライトからの重力換気とし、空調は居住域空調かつ分割利用に配慮します。庇による日射制御と高気密高断熱化で空調負荷を低減します。

水回りは必要な場所に集約し、配管費用を抑えるとともに点検を容易にします。大部分が平屋であるため窓掃除がしやすく、二階部分もテラスから掃除ができます。



④連携機能

④-1 人と場所をつなぐゲートとしての交流施設

筆の里工房から都市公園をつなぐゲートとして交流施設を計画します。ロータリーはスロープ状にすることで、敷地と周辺の高低差を解消し、誰もが施設を楽しめる無理のないアクセスを実現します。ゆとりある待合スペース・授乳室の設置、自然光の入る明るい通路、展望台へのEV設置などユニークなデザインに配慮した計画とします。カフェは茶室や都市公園への眺めの場になると同時に都市公園からの視線を受け止めます。



都市公園から見た交流施設、ゲートとしての構え

④-2 様々な活動の実践的起点となる公園管理用具倉庫

公園管理用具倉庫を都市公園との間に分棟で計画します。棚田休耕田を都市公園に整備するプロセスとその維持管理を、自然と遊ぶクラブとして組織するための拠点として計画することで、場所への愛着を育むことを期待しています。土中環境改善クラブや、公園の一角落でハーブを育て、収穫、加工を行うハーブガーデンクラブ、子どもたちの学び場となる森のようちえん、他にも生態系観察クラブや野草炊き出しクラブ、遊び場づくりクラブなど様々な活動が考えられます。これらの活動を通して市民が日常から施設と都市公園を使いこなすことで、身近な資源に気づき活用するスキルが培われます。また公園管理用具倉庫には、各クラブごとに道具を管理するスペースを設け、市民が主体性を持って運営・管理できる環境を提供します。

生態系観察クラブ・土中環境改善クラブ
ハーブガーデンクラブ
森のようちえん・遊び場づくりクラブ
炊き出しクラブ

④-3 周辺施設への提案

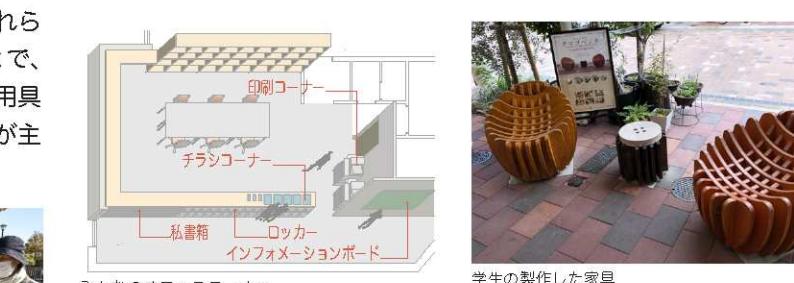
ロータリーは緩やかな傾斜にすることで階段やスロープのいろいろな計画とします。階段等を省略することで生まれる余剰をプラザとし待ち合わせやマルシェに開放します。調整池はスケートボードパークとする事例がありますが、調整池外周部を子どもの自転車などの練習場にするなど若者が集まる場とする可能性を検討したいと考えています。砂防堰堤の工事でダメージをうけた箇所は土中環境改善により空気や水の流れを良くし、地域の植生を呼び戻す取り組みをします。駐車場は、浸透性舗装、法面緑溝などグリーンインフラの考え方を取り入れ境に配慮します。

④-4 交流施設における市民活動団体サポート機能

近年の市民活動はレクリエーションからまちづくりまで多岐に渡っています。事務室はそうした市民活動を束ねるとともに、市民活動が活性化するために、活動団体専用の私書箱、ロッカー、プリンター、コピー機など、「みんなのオフィスコーナー」をその周辺に備えます。また、多様な利用形態が見込まれるように、カフェやホールの一部を作業場所として常時解放することを提案します。

④-5 地元の学校とのコラボレーション

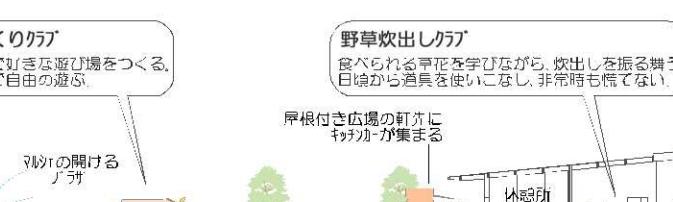
設計チームが持つ大学教育ネットワークを利用して、学生がこうした公共施設プロジェクトに関わる機会を作りたいと考えています。それは学生の実践的な学びになると共に、地元に貢献した経験は交流人口、移住人口を増やすきっかけになります。特に地元高専とは有効なコラボレーションを既に検討しており、運営プログラムの提案や、建設プロセス、木製家具やサイン作成、マルシェの什器や都市公園の遊具などでの協働を考えています。



⑤ 象徴的機能

⑤-1 熊野町のシンボルとしての丸い屋根

熊野町の公共性のある施設（町役場、図書館、防災センター、などの駅など）は筆に因んでか曲線のあるものが多く見られ、隣接する筆の里工房もその好例です。本計画もその特徴を積極的に踏襲し、シンボルツリーであるネムノキを建物の中心に取り込んだ直径50mの円形片流れ屋根を提案します。円形の建築は裏をつくらない全方向性で、筆の里工房や都市公園だけでなく、ロータリー、砂防堰堤、貯水池、雑木林、駐車場など取りこぼしなく敷地周辺と接続されます。他施設と同様に地域のシンボルとして長く愛される魅力ある建物にします。



筆の里工房から都市公園をつなぐ南北向き斜面に沿って様々な活動が展開する。交流施設と公園管理用倉庫はその拠点となる。

⑤-2 熊野町の谷の風景を継承する

棚田や溜池は、古くからこの地の暮らしを支えてきた治水技術ですが、敷地はそのような里山である棚田の一部で南北に高低差がある土地の一角にあります。筆の里工房からロータリーを通り、本施設を抜けて都市公園まで、バリアフリーでひとつながりの豊かなランドスケープとします。



⑤-3 熊野町入りのゲートとしての建築

この施設が、熊野町に既に存在する様々な市民活動や地域ボランティアへの入り口を助ける「ゲート」となって、関係人口を増やす役割を最大化するために、多様な活動を支える少し休める場所を、休憩室やホールの一部に設けます。また子育て世代の交流を促すようにキッズコーナーの充実を図り、子どもと大人の活動の両立を目指します。個人から団体までが気軽に、長く関われる、持続可能な場を提供します。

キッズコーナー(太田市美術館)
子ども食堂(高円寺子ども食堂)

⑤-4 誰もがふらっと立ち寄れるモール

明るい屋根の下に町家が並んだようなモールは様々な活動をワインディングショッピングをするように楽しめます。それは筆まつりの筆通りを彷彿とさせるつくりです。モールには地元の高専等と協働したベンチが設えられ、子どもも大人も気兼ねなく休憩できます。マルシェなどのイベント時には文字通りモールとしての機能を発揮し、賑わいを創出します。筆の里工房や都市公園と合わせて「何かやっていそう、ふらっと」といってみよう」という日常を楽しくする場になります。



マルシェのようす(マルシェ・パティユ)

1 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣農家から出荷できない野菜を譲り受け、シェアキッチンでこども食堂を運営 ・工房で交流しながら、キッズスペースで子供を見守り育てるコミュニティの醸成
2 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣農家から出荷できない野菜を譲り受け、シェアキッチンでこども食堂を運営 ・マルシェを通じて地域の農業を知る ・里山の食べられる野草や木の実、生きのこゑを料理するクラブ活動
3 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園と繋がるモールは散歩道の一部 ・自然と遊ぶ活動で心身とともに健康に ・ダイバーシティに配慮したユニセックストイレの導入
4 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・適材適所に配慮した建築仕様 ・解体しやすい平屋の木造建築 ・複合材料や接着剤の不使用 ・廃棄物の削減 ・分解しやすいつくり、自然素材の積極的な活用
5 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセックストイレの導入 ・体験学習を通じて男女問わず料理や木工を学ぶ ・貯めた雨水をトイレ排水に利用し、上水利用を抑える ・グリーンインフラの導入による自前の土地の保水性向上。
6 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電と蓄電池の設置による再生可能エネルギーの利用 ・高気密高断熱による空調負荷低減とエネルギー効率の向上 ・手動で開閉でき、掃除のしやすい窓による自然換気。
7 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動やボランティア活動を紹介する情報コーナーの充実 ・スキルを持ち寄った教え合いと学びの場 ・体験学習を通じた熊野町の文化発信の場
8 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・経済性に配慮した安全な構造計画 ・地元大工で施工できる理解しやすい設計 ・設計施工プロセスに学生が関わる機会の提供
9 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップや社会実験を通じた施設の実現性の向上 ・経験豊富な設計チームの構築
10 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスペースを利用した子どもの見守りと親世代の交流 ・体験学習やイベントを通じた近隣で働く外国人労働者と町民の交流 ・多国籍対応したサイン計画 ・経済性に配慮した安全な構造計画 ・パリアフリーに配慮したわかりやすい動線計画 ・皆に親しまれた茶室の都市公園内における積極的な活用
11 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・適材適所に配慮した建築仕様 ・解体しやすい平屋の木造建築 ・複合材料や接着剤の不使用 ・廃棄物の削減 ・分解しやすいつくり、自然素材の積極的な活用
12 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・分解しやすいつくり、自然素材の積極的な活用 ・複合材料や接着剤の不使用 ・廃棄物の削減 ・手動で開閉でき、掃除のしやすい窓による自然換気。
13 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセックストイレの導入 ・調整池とグリーンインフラの連携による雨水排水計画の提案 ・自然素材を利用し、プラスチックゴミを減らす ・広葉樹を植えて水を蓄え、土砂の流出を防ぎ、海に栄養分を供給する ・クラブ活動を通じた自然からの学び ・建物周辺や緩衝帯に広葉樹を植え、水を蓄えて生態系や生物の多様性を守る ・都市公園の維持管理にも関わるクラブ活動をサポートする公園管理用倉庫 ・構造材と仕上材に積極的に木材を利用した森林の保全と再生
14 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電と蓄電池の設置による再生可能エネルギーの利用 ・高気密高断熱による空調負荷低減とエネルギー効率の向上 ・手動で開閉でき、掃除のしやすい窓による自然換気。 ・市民活動やボランティア活動を紹介する情報コーナーの充実 ・スキルを持ち寄った教え合いと学びの場 ・体験学習を通じた熊野町の文化発信の場
15 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・経済性に配慮した安全な構造計画 ・地元大工で施工できる理解しやすい設計 ・設計施工プロセスに学生が関わる機会の提供
16 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップや社会実験を通じた施設の実現性の向上 ・経験豊富な設計チームの構築
17 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスペースを利用した子どもの見守りと親世代の交流 ・近隣で働く外国人労働者のコミュニティと熊野町の交流 ・町、利用者、運営者などを巻き込んだ会議 ・ワークショップや社会実験を通じた施設の実現性の向上 ・経験豊富な設計チームの構築

SDGsへの対応表

